

# 用水季報

令和3年10月号  
発行元：美しい水の会  
連絡先 090-1993-5903  
<http://bunji-yosui.org/>



**用水通水状況：** 令和3年7月から9月までの砂川用水の止水は合計27日間で、止水率は29.3%でした。止水した期間は、7月1日～5日、8月16日～30日、9月17日～21日、9月29日～30日の4回でした。8月16日～30日の止水原因が、小平市の用水調査のためであったことを除けば、ほかの期間はすべて小平市での護岸整備のための止水でした。

## 令和3年度上半期の砂川用水美化活動

令和3年度の前半が終わり、本年度の活動基本方針である砂川用水沿い3公園の美化推進の結果は、ほぼその目標を達成していると考えています。並木町公園北側水路は毎週水曜日に草刈りが行われ、季節の草花が護岸を彩っています。並木公民館北側の水路は、ほぼ週2回程度のペースで会員の自発的活動で流れがきれいになっています。ヤマモモ公園は月1回の定期的活動により、従来草が茂っていた護岸は、キバナコスモスの群生を生み出して来ています。しかし、今年は例年に比べ草の成長が著しく感じられ、これら3公園以外でも草が茂り、維持管理作業が滞る状態でした。問題は8月一杯の夏休みにありました。維持管理を休んだ間に草が用水を覆い隠すほど伸びたのです。今後、水路の観察を十分行い、できる限り早期に草刈りに着手しなければならないことを痛感しています。上半期の活動は、定期的作業20回、会員の自発的気づき清掃61回、並木町公園美化活動20回でした。



並木町公園水路に咲く花々



私たちが解決しなければならないことは、美化活動の頻度です。幸い、今年3月に国分寺市「緑の基本計画実施計画」（裏面詳細を参照ください）が策定され、砂川用水の親水化の検討が始まりました。この計画に沿って、親水化を進める領域を明確にしたうえで、私たちが行う維持管理作業領域を、市と話し合うことにしています。ぜひ皆様の様々な“親水化”に対する想いをお聞かせいただき、砂川用水をより身近な憩える場にしてゆきたいと考えています。

## 「じゃぶじゃぶ水遊び」開催（主催：美しい水の会）

10月23日（土）10:00～16:00、並木公民館親水施設に流れる多摩川の水に触れ遊ぶ

「じゃぶじゃぶ水遊び」を開催します。雨天の場合は24日に順延します。参加自由です。

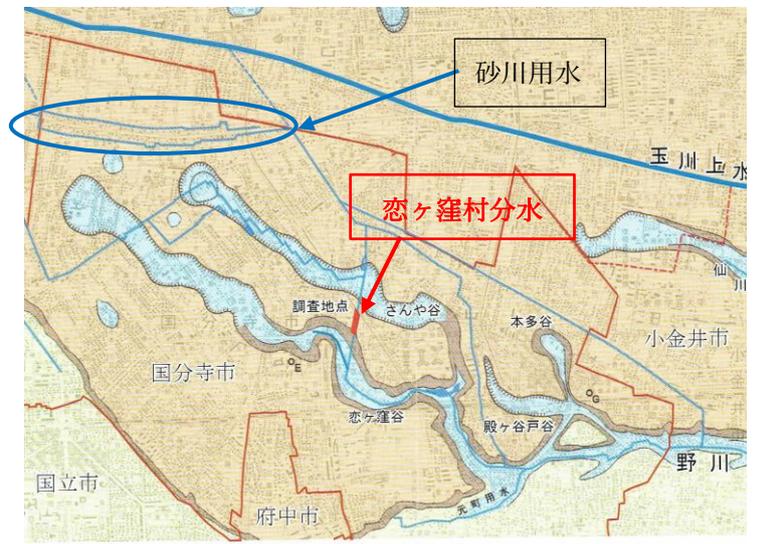
笹舟、板舟、水鉄砲など水と戯れる材料は美しい水の会で用意します。いろいろな水遊びを創り出してください。

ご家族でお越しいただき、皆様と用水のお話などして、大いに楽しく遊び、語りましょう。

コロナ対策として、除菌アルコールは用意いたします。マスクを着けて、汚れても良い服装でお越しください。

## 美化活動拠点のご紹介：恋ヶ窪村分水

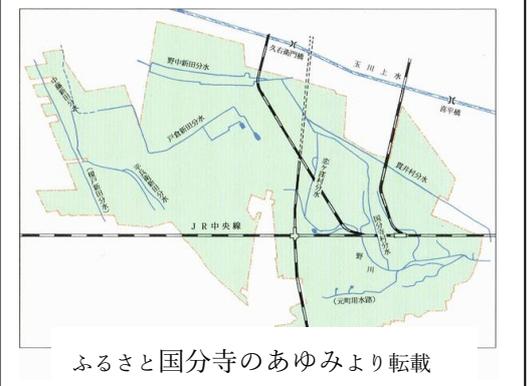
美しい用水の会は、国分寺市保存樹林である恋ヶ窪用水路周辺緑地に残る市重要史跡「恋ヶ窪村分水」の遊歩道周りの整備にも取り組んでいます。恋ヶ窪村分水は右図（国分寺市遺跡調査会発行「恋ヶ窪村分水の調査」より転載）中心近くの赤い太い線の所（熊野神社北）にあります。用水路の標準的幅は9.04m、深さ2.5～4.9m長さ約100mという、分水としては稀な大規模なものです。この分水は、国分寺崖線に注ぐ“さんや谷”と“恋ヶ窪谷”に挟まれた丘を掘り1657年（明暦3年）に開削されました。明治時代には砂川用水から今の窪東公園西の道路脇を恋ヶ窪村分水として流れ、姿見の池がその流末でした。この分水の役割は、熊野神社南あたりからあった田圃のための田用水でした。今は、分水のある周辺緑地は遊歩道も整備され、緑濃い憩いの場となっています。



その遊歩道の東側にはアズマネザサがびっしりと生え、クヌギやコナラの垂れ下がった枝と共に光を遮るような状態になるのです。ササや遊歩道周りの草を刈るのが私たちの活動です。市の職員と一緒におよそ3時間100m以上ある遊歩道周りの刈った草の量は、市のゴミ収集車が満載になるほどです。作業が終わり明るく見通せる遊歩道の輝きを眺め、ひと息つけます。その眺めが疲れた体に元気を与えてくれています。市の重要史跡であり300年以上もこの街に残る恋ヶ窪村分水のひとつの物語を皆様とともに大切に守り育ててゆきたい、それが私たちの願いです。

## 国分寺市「緑の基本計画実施計画について」—用水の親水化始まる—

令和3年度から6年度にかけての国分寺市「緑の基本計画実施計画（以下：計画）」が本年3月に策定されました。計画ではその基盤となる「緑の基本計画」（平成23年策定）の実施施策として「市内をネットワークする緑や水辺の保全・整備」を掲げ、「用水路周辺の緑化・親水空間化の検討」を具体的な実行施策としてきました。今年、令和6年度の目標として『砂川用水について、新たに親水化が可能な場所を検討していること』が掲げられています。令和4年度に姿見の池緑地に隣接する西恋ヶ窪若松公園と用水路が一体化・親水化することになり、さらに令和5年～6年にかけて砂川用水の親水化検討が行われることが、計画には明記されています。



右の図でも明確なように昭和30年代には国分寺市は周りを用水路や野川に囲まれた“まち”であったのです。北部に砂川用水（旧野中新田分水）が、東には国分寺村分水と恋ヶ窪村分水が、西には中藤・平兵衛新田分水が、南には野川が流れ、“まち”を潤し生活を支えてきたのです。まさに、市と共有する親水化の場所とカタチをつくり上げ、この計画を実現できる協働基盤を作ってゆかなければならない時が来たと思います。私たちは、まず砂川用水に沿った3公園の親水化を皆様とともに考えてゆきたいと思っています。昔、用水は田畑を豊かにする田用水と生活を支える生活用水として利用されてきました。昭和30年代に入り、用水組合が解散し用水の水利権がなくなり、井戸・水道の普及、人口増大とともにそれまでの用水の果たしてきた役割は終わりました。しかし、“親水化”という事が、これからの新しい用水の役割になるといえます。用水の親水化のあり方を考え、300年の流れを絶やさないう皆様の声を集め、皆様と共に親水化を実現したいと思っています。

## 令和3年度の砂川用水美化活動予定

本年度は、用水の美化活動に一層力を入れ、皆様の憩える空間を維持できるよう活動してまいります。

実施場所は用水の状態によって変わりますので、詳細は「美しい用水の会」下記ホームページでご確認ください。

[\(http://bunji-yosui.org/\)](http://bunji-yosui.org/)